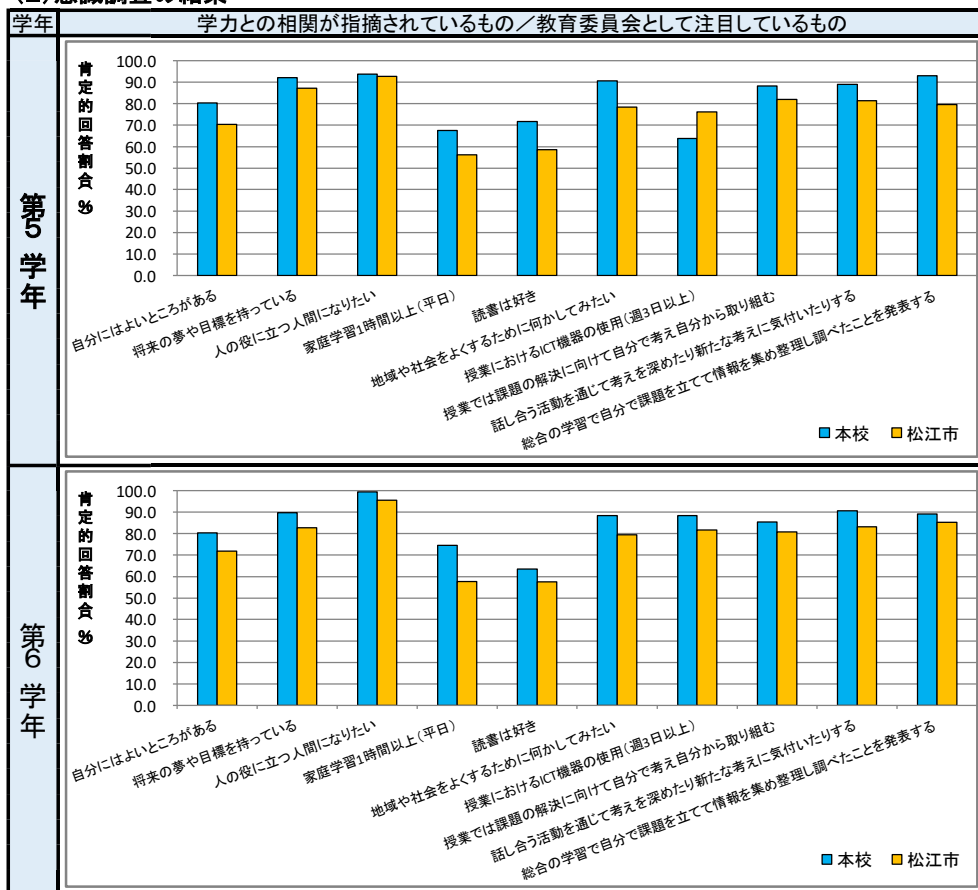


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(●)
第5学年	国語	○知識、特に「漢字・語句・文法」などは比較的安定している。 ○覚えれば解ける問題はできている。 ○これらは毎月行われる語彙テスト(書取会)の成果が出ていると考えられる。	・「なぜ?」「何をそうかんがえた?」を問いかける機会を多く設定する。例えば選択問題などでは、答えだけでなくその理由、根拠を話させたり書かせたりするようにする。 ・いきなりハードルをあげると忌避概念が働く危険性があるので、スモールステップの指導計画を綿密に立てたり、複数の資料を用いた問題や条件付きの要約などの問題にも取り組ませたりする。
	算数	○四則計算や分数・小数の基本的な処理はおおむね定着している。定型的な計算問題では正答率が高い。 ○図形、測定・変化と関係も基本的な問題は概ねできている。 ○これらは毎月行われる計算などの基礎テスト(計算会)の成果が出ていると考えられる。	・計算などの基本的な内容は計算会などで確実に押さえつつ、思考過程を可視化・言語化する機会を授業で可能な限り設定していく。 ・例えば「割合」の学習などでは普段の生活に活用する機会が多くあると考えられる。授業時間以外にも折に触れて学習内容との繋がりを認識させる工夫をしていく。
第6学年	国語	○相手に伝えるための話し方の工夫はわかっている。 ○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめて話すことはできる。	・話すことで思考の整理をすることが強みなので、対話の後、文章化する。 ・箇条書きで書くことを国語だけでなく、他の教科でも意識して取り入れる。 ・論立てで分かりやすく書くために、言葉の順序に気をつけて書いたり、接続語を使って説得力のある文章を書いたりする。ふり返りやまとめの場面で書かせるようにする。
	算数	○分数の四則計算は身につけている。 ○どの領域においても、基本的な内容は理解している。	・計算会や日々のドリル学習で引き続き定着を図る。 ・文章題では、解決するために条件や基にする数値を確認して解くようにする。全体での指導で確認し、個別にも確認することを習慣化できるようにする。 ・応用力を生かせるような課題を設定する。友達との対話からヒントをもらえるよう、グループ学習なども試みる。
		●思考・判断・表現は全国平均を下回っている。特に連続テキスト(文章)を読み取り、理由や根拠を示して説明する力が弱い。 ●非連続テキスト(グラフなどの図表)を読み取り、文章化する力も弱い。	
		●基本的な内容の理解度に対して、読み取り問題などでの正答率が低い。考えを言語化したり、説明したりする力が弱い。 ●つまり「計算」はできるが「使えない」構図が浮かび上がる。説明や活用の機会が少ないことが考えられないか。	
		●目的や意図に応じて詳しく書いたり、簡潔に書いたりすることが難しい。 ●文と文との接続の関係や熟語の成り立ちの理解が弱い。	
		●文章問題に合った式を選ぶことが課題。文章から立式できない。 ●拡大図と縮図 作図の仕方は理解しているが、それを活用することができない。	

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について  
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

- プレゼンテーションを通じて、相手意識を持ったコミュニケーション能力を高めていきたい。
- ICTを使用した授業の実施頻度を上げていく必要がある。
- 家庭での学習習慣定着のための策を工夫していく必要がある。

【第6学年】

- 自己肯定感が高く、向上心や自信をもつ児童が多い。
- 話し合いや情報機器などを活用して、学習を深めている。
- 家庭学習や読書は、市の平均は上回っているものの、習慣になっていない児童も多いので、時間を確保したりタブレットドリルの課題で取組を見守るようにする。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	127	名
第6学年	137	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示